

高齢者インフルエンザ予防接種について

インフルエンザにかかると普通の風邪に比べ重症になり、肺炎等を合併すると危険な状況になることがありますので注意が必要です。

インフルエンザ予防接種は、インフルエンザ発症の予防や重症化を防ぐ有効性は確認されています。

インフルエンザ予防接種後抵抗力がつくまでは、2週間程度かかり、その効果が持続する期間は約5ヶ月間程度とされています。そのため、遅くとも12月中旬までに接種することをお勧めします。ただし、予防接種を受けることは義務ではありません。希望する方はお受けください。

予防接種助成対象者（接種日現在、次にあてはまる方）

- 1、満65歳以上の方
- 2、満60歳以上65歳未満で心臓・腎臓・呼吸器の機能に自己の身の周りの日常生活が極度に制限される方、また、ヒト免疫不全ウイルスにより免疫機能の障害により日常生活がほとんど不可能に制限される方（これらの障害により身体障害者手帳1級に該当する場合）

予防接種助成対象期間及び回数

- 1、接種できる期間 令和5年10月1日～令和6年1月31日
 - 2、接種回数 1回
- ※ 医療機関により接種開始時期が異なりますので、接種希望医療機関にお問い合わせください。

自己負担額

- 病院で接種する方 1,500円
- 高齢者施設等で接種する方 無 料

予診票

医療機関及び施設にある予診票を使用してください。

持参する物

健康保険証・健康手帳（持っている方）

* 予防接種助成対象者の2に該当する方は身体障害者手帳

予防接種を受ける時には

裏面の説明書をよく読んで、必要性、副反応等を理解のうえ、接種前・接種後の注意を守って受けてください。

〈 裏面へ 〉

高齢者インフルエンザ予防接種説明書

《一般的注意》

- ・ 必要性や副反応をよく理解したうえで受けましょう。
- ・ 気にかかることや分からないことがあれば、予防接種を受ける前に担当医師・看護師・町担当係等に質問しましょう。納得できない時は、受けないでください。
- ・ 予診票は、医師にとって予防接種の可否を決める情報源です。基本的には本人が責任を持って記入し、正しい情報を医師に伝えてください。

《予防接種を受けることができない人》

- ・ 明らかに発熱のある人（一般的に体温が37.5℃以上）
- ・ 重篤な急性疾患にかかっていることが、明らかな人。
- ・ インフルエンザ予防接種によってアナフィラキシーを起こしたことが明らかな人。
（アナフィラキシー：接種後30分以内に起こるひどいアレルギー反応のこと）
- ・ インフルエンザ予防接種で、接種後2日以内に発熱のみられた者及び全身性発疹等のアレルギーを疑う症状を呈したことがある人。
- ・ その他、医師が不適当な状態と判断した人。

《予防接種を受ける前に、医師とよく相談しなければならない人》

- ・ 心臓病・腎臓病・肝臓病や血液の病気などで治療を受けている人。
- ・ 以前の予防接種で、2日以内に発熱・発疹・じんま疹などアレルギーを思わせる異常がみられた人。
- ・ 今までにけいれんを起こしたことがある人。
- ・ 中耳炎や肺炎によくかかり、免疫状態を検査して異常を指摘されたことのある人。
- ・ 予防接種の成分又は鶏卵・鶏肉その他鶏由来のものに対して、アレルギーがあるとされた人。

《予防接種後の一般的注意事項》

- ・ 接種後30分間は急な副反応が起こることがあります。医師（医療機関）と、すぐ連絡がとれるようにしておきましょう。
- ・ 副反応の多くは、24時間以内に出現しますので、特にこの間は体調の変化に注意しましょう。
- ・ 接種後まれに下記の副反応が起こることがあります。また、接種と同時に他の病気がたまたま重なって現れることがあります。接種部位が痛みや熱をもって腫れたり、全身のじん麻疹・繰り返す嘔吐・顔色の悪さ高熱等があったら診察を受けて下さい。
- ・ 接種当日の入浴はさしつかえありませんが、注射部位はこすらないでください。
- ・ 接種当日はいつも通りの生活でかまいませんが、激しい運動や飲酒は避けましょう。

※予防接種の副反応とは

- ・ 注射跡が赤みをおびたり・腫れたり・痛んだりすることがありますが、2～3日のうちおさまります。
- ・ 発熱・寒気・頭痛・倦怠感などがみられることもあります。数日のうちに治ります。
- ・ 接種後数日から2週間以内に発熱・頭痛・けいれん・運動障害・意識障害の症状が現れるなどの報告があります。非常にまれに、ショックやじん麻疹・呼吸困難などが現れることがあります。